

AIDMAプログラムの方針①

【AIDMA(アイドマ)の原理を利用したプログラム】

A: 注意を喚起する	…	何だろう
I: 興味を持たせ	…	面白そうだな
D: 欲求	…	やってみたいな、やってみようかな
M: 記憶	…	楽しかった・出来た・出来なかった・悔しい
A: 行動	…	もう一度やってみたい、どうすればうまくいくのかな

複数の療育プログラム(プログラミング・自立課題等)を用意していますが、無理に強いると言う事はありません。

その為、強制的に「みんなで一緒に体操」や「みんなで歌を歌う」ことは行いません。子供たちが主役となり自発的に活動ができるような療育支援を考えています。

保護者や子供たちから「得意なことや好きなこと、苦手なことや嫌いなこと」を聞き取り、子供たちが興味をもっていること、興味をもってもらえそうなことへの声掛けから始めます。

子供たちが気になり始めたら、スタートです。

職員がまず主導でプログラムをこなしていきます。

出来た＝「自信になり」、うまくいかなかった＝「うまくいく方法を一緒に考える」

慣れてきたら「主役」は交代。子供たちが中心となり、職員は他のお友達を誘い一緒にプログラムを行います。そうした取り組みから、子供たちが自らプログラムに参加できるように導きます。

○成功・失敗体験を重ねてさらに成長する

いつでも成功ばかりではなく、失敗することの方が多いたと思います。

「なぜ？失敗したのか」を一緒に考え、子供たちが知恵を絞り、時にはお友達と一緒に考え何度も失敗を繰り返しながらも、試してみることを諦めず「できない事」と「やらない事」を区別し、成功するまで根気よくアプローチを行います。

その為、できた時には一緒に喜び、一度の成功が二度三度成功するまで

繰り返し成功することが当たり前になるようにします。ここで初めて、成功する喜びを

感じる事ができると思います。喜びを感じる事ができれば一段と飛躍するチャンスだと考えています。今度は「苦手なことや嫌いなこと」にチャレンジして頂きます。

失敗することが多いのですが、偶然成功すると「苦手なこと」が「得意なこと」に。

「嫌いなこと」が「好きなこと」になったりします。

このように成功・失敗体験を重ねてさらなる成長を体感して頂きたいと考えています。

○変化に対応できる子供たちへ

発達障害(自閉症スペクトラム症候群、ADHD、学習障害等)、身体障害等で、それぞれサポートする内容は異なりますが、同じ施設で同じ時間を過ごして頂きます。

施設で過ごす時間は、子供たちの人生にとっては微々たる時間でしかありませんが、これから経験するいろいろな場面にできる限り接して頂きたいと考えています。

その為、外出して、社会科見学や、公園や、動物園や、空港に、電車に乗ったり、

買物の練習をしたりと外部での刺激も大切にしています。子供たちの体験は、

子供たちの成長と共に変化していき、貴重な成功体験になります。

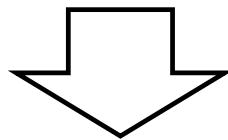
楽しんで、余裕のある大人へと成長して頂きたいと考えています。

AIDMAプログラムの方針②

主役は子供たち。自由度の高い療育で継続的な利用を促し、
AIDMA(アイドマ)の法則を応用した個別対応で自立を促します。

自閉症スペクトラムの場合の事例		職員の接し方や接し方	傾向
認知段階	A(注意) →	保護者、ご本人より好きなことや得意なことを聞き取りを行う。 カードゲームやボードゲーム興味を引くことを提案し子供との距離縮める。	自閉症の児童は他者を意識して壁をつくります。自己防衛に対する欲求が強いので、仲良くなるまで待つ必要があると考えています。
感情段階	I(興味・関心) →	トランプゲームに興味あり！ 神経衰弱を行い、順番決めは職員が行う。たくさん会話をし、出来たことを具体的に褒めて自信をつけてもらう。	特定の対象物に強く惹かれています。その対象物を探ることが第一段階だと考えています。対象物を共有できる状況をつくります。
	D(欲求) →	複数回ゲームを行うように、順番決めを子供が行うようにする。職員は他のお友達も誘い、ゲームを通して触れ合う機会を設ける。	共有ができると更に一緒に共有したくなる傾向にあります。特定な物、特定の人にこだわりがあります。共有できれば、積極的なボディータッチが有効だと考えています。
	M(記憶) →	ゲームのルールを理解やお友達と接し方を肌で感じることで「また、一緒に遊びたい」と思うようになれば、子供から職員、お友達を誘うように促す。	利用を通して施設での環境に少しずつ慣れることで感情も安定すると考えています。
行動	A(行動) →	新たなルールや別の遊びを提案、子供のしたいことの聞き取りを行い、職員、お友達に教えて頂きます。	繰り返すことで、その環境に慣れて、安定してきますので次のステージを目指すことができると考えております。

自立を促す



社会的スキル、学習スキル、生活スキル、心身スキル